

## ツアーの目的・趣旨・国内外の状況など

### 目的

本ツアーは、ドイツの先進的な保育・幼児教育の現場の視察、情報の提供を通じて園庭ビオトープを普及・啓発し、日本における子どもたちの最善の利益を優先した保育・幼児教育の新たな展開に資することを目的としています。また、このことを通じた幼稚園・保育所・認定こども園の経営面での安定的な発展に寄与することを目的としています。

※ビオトープとは、地域の野生の生きものが生息する空間をさします。私たちの身近には、樹林や水辺、草地など多様なビオトープが存在しています。そうしたビオトープを子どもたちのために園庭に取り入れたものが「園庭ビオトープ」です。

### 趣旨

心とからだは急速に成長する乳幼児期は、豊かな感性や思いやり、協調性、創造力などをはぐくむ大切な時期です。「豊かな感性や思いやり、ものや命を大切にできる心」や、様々な才能・素質は、花の香りをかぎ、野鳥の声に耳を傾け、そよぐ風を感じ、土の感触を味わい、様々な生きものと出会うなど、五感を通じて自然とふれあい、自然の美しさや不思議さを他者と共有することで発達します。自然豊かな「園庭ビオトープのある園」は、安心して毎日自然とのふれあいができる、子どもたちにとって最高の遊び場であり学びの場です。また、保護者の評価も大変高く、入園希望者が増加しています。

こうした動向を踏まえ、当協会では、「全国学校・園庭ビオトープコンクール」の実施や「こども環境管理士」・「ビオトープ管理士」認証資格などを通じて、自然とふれあえる保育の場づくりの後押しを行ってきました。その一環として、海外における参考事例を紹介する本ツアーは、幼稚園・保育所・認定こども園などの施設経営者や保育者の方々などより、毎回大変ご好評をいただいています。

2020年度は、ドイツの中央部に位置するグリム兄弟ゆかりのメルヘン街道の町をはじめ、ロマンティック街道、木組みの家街道、古城街道の町々を巡り、ドイツが力を入れている、乳幼児期からの自然とのふれあいの取り組みを見学します。草木や生きものの命にあふれる幼稚園保育所等の園庭ビオトープなど、遊びの幅が広がる楽しい工夫やアイデアを多数ご紹介します。加えて、シュタイナー教育実践園や森の幼稚園の訪問、自然とのふれあいの効果などを学ぶ場などもご用意しています。

### 子どもたちが置かれている環境

子どもたちは、近年ますます多忙な環境に置かれるようになってきました。外遊びより室内で過ごす時間が増えることで、自然とのつながりが希薄になる一方、現代的な既製のおもちゃやゲーム機、スマートフォンなどに

依存する傾向が強まっています。こうしたことは、体力・運動能力の低下をもたらすとともに、子どもの排他性を高めてしまう可能性があります。自然のなかに身を置き、そこにあるものを使って様々な工夫して遊ぶことが、体力・運動能力の向上を促すとともに、考える力を養い、将来の人となりや物事の価値観を決定する重要な鍵を握っています。このことから、乳幼児期における自然とのふれあいは、私たち人間にとってなくてはならないものと言えます。

## ドイツの状況

2002年、国連ヨハネスブルグ・サミットにおいて、日本政府とNGOの共同提案により、『国連持続可能な開発のための教育(ESD)の10年』が採択されました。2005年『国連ESDの10年国際実施計画』(2005年～2014年)が策定され、世界各国にその推進が呼びかけられました。2014年以降も持続可能な開発のための教育の更なる推進が求められています。こうした世界的な流れのなかで、人格形成上最も重要な幼児期に、協調性や豊かな感性、健康な体、新しい時代にふさわしい考え方や行動などを育むため、野生の生きもの、水、土、太陽の光を重要視して、園庭や園舎を見直す動きが進んでいます。

自然や環境保護への意識の高いドイツでは、地域在来の植物を園庭で育てるなど、身近な生きものたちとの日常的なふれあいを促す園づくりが盛んで、政府も様々な取り組みを通じて奨励しています。連邦政府が全国規模で進める、生物多様性条約関連のプロジェクト『幼稚園保育所の子どものための庭、一緒に多様性を発見しよう(Kinder-Garten im Kindergarten - Gemeinsam Vielfalt entdecken)』は、絶滅の危機にある多様な野生生物に対する保護の意識を幼少期から育てることをねらいとしており、現在国内200カ所以上の幼稚園保育所が参加しています。自然を観察したり、調べたりすることを通して、子どもの探究心の発達や自然についての理解や知識の向上などを促すプロジェクト『小さな研究者(Kleine Forscher)』に取り組む園も増えています。

加えて、共生社会の構築に向けた取り組みも進んでいます。インクルーシブ保育・幼児教育は、障害の有無や、年齢・性別・人種・言語・文化・宗教的背景の違いなどを越えて、分け隔てなく遊ばせながら、子ども一人一人の保育・教育的ニーズにあった支援を行うものです。子どもたちは、自分にはない異なる能力や特性について知ること、他者への理解を深め、思いやりの心、助け合いの精神を養うことができます。また、保護者イニシアティブは、園庭づくりや管理、園の運営なども含めて、保護者と連携して行うものです。保護者との密な連携を通じて、保護者の信頼や様々な協力を得るのに役立っています。

## 日本の状況

日本においても、自然とのふれあいなど、多様な環境での体験を通じた保育・幼児教育の重要性に対する認識が高まっています。厚生労働省が策定した「保育所保育指針」(2008年改定)のなかでも、保育所における保育の基本は環境を通して行うことだということが謳われています。また、保育者は、乳幼児期の子どもの成長に最もふさわしい保育環境をどう構成するかが保育の質を左右するということを自覚しなければなら

いとしています。子どもたち自らが環境に関わり、自発的に活動し、様々な経験を積めるようにすることが重要であることから、保育・幼児施設内に自然などを生かした環境を構成することが求められるとしています。

## 日本生態系協会(視察企画・協力)

(公財)日本生態系協会は、自然と歴史が共存する美しくにづくり・まちづくりを目指して活動するシンクタンクです。私たちの生存基盤である自然生態系を守り、経済、社会、文化のあり方について国内や海外の情報を広く集め、国際的な視点からも調査研究を進め、市民や議員、政府機関等に提案を行っています。また、『全国学校・園庭ビオトープコンクール』の実施、園庭ビオトープづくりやその活用など自然体験・環境学習の推進、国際シンポジウムや各種セミナーなどの開催、こども環境管理士およびビオトープ管理士の認証、書籍の発行など、多岐にわたる取り組みを行っています。主な著書に、『学校・園庭ビオトープ 考え方・つくり方・使い方』(講談社)、『環境教育がわかる事典』(柏書房)、『ビオトープネットワーク』(ぎょうせい)などがあります。



171-0021 東京都豊島区西池袋 2-30-20 音羽ビル  
TEL 03-5951-0244 FAX 03-5951-2974 <http://www.ecosys.or.jp/>